



YUMING Love The Earth Final

出演者プロフィール

松任谷 由実（まつとうや・ゆみ）

1954年1月19日、東京都生まれ。

72年、多摩美術大学在学中にシングル「返事はこない」でデビュー。

76年、松任谷正隆氏と結婚し松任谷由実に。オリジナル・アルバムは2004年11月10日発売の「VIVA! 6×7」で通算33枚。

コンサートもデビュー以来毎年行っており、2003年には4年ぶりに「シャングリラ」を復活させ、「シャングリラⅡ～氷の惑星」として全国7都市51公演を行い、香港での公演も成功させた。

大規模コンサートの一方で、1978年より続く「逗子マリーナ(当時、葉山マリーナ)」でのコンサートは通算17回開催。1981年より続く「苗場プリンスホテル」でのコンサートは通算25回開催。

2004年12月21日「よこすか芸術劇場」を皮切りにスタートしたコンサートツアー「VIVA6×7 ツアー」は、2005年6月17日「NHKホール」までの間に、全国26都市60公演を行い、観客は約15万人を動員した。

最新作は6月1日にリリースしたシングル「ついてゆくわ / あなたに届くように」。

また、8月8日に発売されたハウスの「北海道シリーズ」の新商品「ハウス北海道チャウダー」CM曲をYUMINGが書き下ろしを行った。なお、この曲は「ハウス北海道シチュー」のCMソングとしてもオンエアされる。8月20日より全国でオンエアされる予定。

さらに「やさしさに包まれたなら」をイメージソングとして使用しているJR東日本「Suica」キャンペーンのTVCMが2005年8月20日よりオンエア開始。大好評のシリーズCMに、今回はユーミンがちょっとだけ出演している。

シングル「ついてゆくわ / あなたに届くように」(東芝EMI)TOCT-4870 好評発売中

通産37枚目、2005年度初となる今作品は、TBS系列木曜ドラマ「夢で逢いましょう」主題歌 & NHK総合・デジタル総合「探検ロマン世界遺産」テーマソングのダブルタイアップシングル。

「夢で逢いましょう」主題歌の『ついてゆくわ』は、「ダンデライオン」「守ってあげたい」「ANNIVERSARY」など、YUMINGの名曲を彷彿とさせる普遍的なラヴバラード。かけがえのない人への暖かい眼差しに溢れた詞の世界が、ドラマのテーマの根底に流れる家族愛や、人と人をつなぐさまざまな愛の形を描き出す、まさに21世紀のスタンダードといえる楽曲。また「探検ロマン世界遺産」テーマソングの『あなたに届くように』は、手紙形式の歌詞が新鮮に心に響くみずみずしさ溢れる楽曲に仕上がっており、雄大な世界遺産の映像とリンクして、聴く者を素敵な旅に誘ってく



れることだろう。ユーミンがNHKの番組テーマを書き下ろすのは、平成6年から7年にかけて放送された連続テレビ小説「春よ、来い」以来10年ぶり。

YUMINGの最新情報はここでチェック！

- ・オフィシャルHP www.toshiba-emi.co.jp/yuming
- ・松任谷由実レギュラーラジオ番組「FOR YOUR DEPARTURE」(TOKYO FMを始めとするJFN系
全国ネット:毎週日曜日 17:00~17:55)
- ・インターネットラジオ「松任谷由実はじめました」 www.toshiba-emi.co.jp/yuming/radio



Dick Lee (ディック・リー)

マルチ・タレントとして多方面で活躍した後、現在は歌手として、又、作曲家として、アジアのニュー・ジェネレーションのミュージック・シーンを代表するアーティストとして広く認められている。

ディック・リー旋風は、1971年、彼が15歳の時、ディック・アンド・ザ・ギャング(彼の兄弟とのユニット)というグループで様々なタレント・コンテストで賞を独占した頃から始まる。彼の最初のアルバム「ライフ・ストーリー」は、彼の作曲家としての才能も世間に披露するもので、1974年にリリースされた。

2004年、彼はショービジネス界デビュー30周年を記念して、シンガポール公益会(Community Chest)とともに初のチャリティープロジェクト「ディック・リー・サンシャイン・プロジェクト」を開催し、初めての自叙伝「アドベンチャー・オブ・ザ・マッドチャイナマン」を出版するとともに、これまでの30年間に作曲した曲をみずから編集したアルバム「ライフ」および「ストーリーズ」を発表し、年末には2晩にわたるナイトコンサート、「ライフ・ストーリーズ: Dick Lee 30周年記念コンサート」を行った。

70年代から80年代にかけて、アジアのポップ・ミュージックの第一線で活躍し、初期のアルバム「ライフ・イン・ザ・ライオン・シティー」(1984年)で、その名声はさらに高まる。しかし、彼の存在を揺るぎないものにしたのは、1989年にリリースされた「ザ・マッド・チャイナマン」で、この年彼はシンガポール、香港、日本で数々の受賞に輝く。

1990年、ディック・リーは日本へ進出し、彼のソロ活動及び、香港のサンディ・ラム、日本のグループ、ZOOなどアジアのトップ・ミュージシャン達とのコラボレーションを通じ、新しいアジア(のアーティスト)のアイデンティティの確立に貢献する。又、アジアの多くのトップ・シンガーに曲を提供。

1998年から2000年まで香港を本拠とするソニー・ミュージック・アジアのバイス・プレジデント(アーティスト・アンド・レパートリー部門)となる。その間に発表したアルバム「トランジット・ラウンジ」は、著しい路線の変更により賛否両論を得る。

アルバム「エブリシング」(2000年11月発表)は、1970年代から彼が書いてきた曲の中のレア・コレクションである。2001年12月には、KK Outreach for Kids Fund(シンガポールの障害児の為の基金)へのチャリティーCDに、彼の友人レオナルド・Tとの共作「イット・オール・ビギンズ・ウィズ・ラブ」(すべては愛から)を提供。この曲はシンガポールで大ヒットとなる。

ミュージカルの制作にも意欲的で、ビューティー・ワールド(1988年)、フライド・ライス・パラダイス



(1991年)、カンポン・アンバー(1994年)、ホットパンツ(1997年)を始め、評判が高かったジャッキー・チュンのスノー・ウルフ・レイク(1997年)、日本、シンガポール、香港でも満員御礼で公演されたナガランド(1992年)などに曲を書いている。彼の芝居(ミュージカル)への愛情と意欲はその後も絶えることはなく、1998年からはシンガポール・レパートリー・シアターのアソシエート・アーティスト・ディレクターとして、情熱的に関わっている。

2000年、ディック・リーは、シンガポール・プレジデント・スター・チャリティー・ドライブで上演された人気コメディ・ミュージカル「Phua Chu Kang」の作曲を担当。その後プロデューサーとしてTCS局(シンガポール国営放送局)でテレビドラマ化し、シンガポールで最も人気あるミュージカル・ドラマとなる。

2002年、ダンス・ミュージカル re:MIX に初挑戦し、作曲及び監督を手がけ、Forbidden City は、シンガポールに2002年10月にオープンしたオペラハウス、ザ・エスプラネードのこけら落とし公演で好評を得、2003年9月に再演された。

2002年には彼の念願が叶い、シンガポール・ナショナル・デイ・パレード(建国記念日)のクリエイティブ・ディレクターに就任する。偶然にも彼の曲、「ウィ・ウィル・ゲット・ゼア」が2002年ナショナル・デイ・ソングに選ばれ、パレードのテーマ・ソングとなる。この曲は、シンガポール生まれの中国系トップ・スターであるステファニー・サンが歌い、彼女のベスト・セリング・アルバムにも収録される。1998年にナショナル・デイ・ソングに選ばれた、キット・チャンが歌う「ホーム」に引き続き2度目の選出であった。

2003年、彼は日本財団による J-ASEAN キャンペーン・のテーマ曲「トレジャー・ザ・ワールド」の歌詞を英語で作詞した。日本とASEAN 10カ国からのアーティストがこのキャンペーン曲のレコーディングに参加し、それぞれ英語と各自の母語で歌っている。

2003年7月、ディックの作品は、定評ある福岡芸術文化賞の受賞という栄誉に輝いた。これは福岡アジア文化賞委員会から、アジアの芸術界に多大な貢献をしたと認められる個人に送られる賞である。

ディック・リーは音楽のみならず、ロンドンのハロウ・スクール・オブ・アートでファッション・デザインを学んだことからわかるようにファッションへの関心も高い。16歳の頃からファッションへの興味が芽生え、10代半ばにして母親のブティックの為に最初のデザインをしている。ファッション業界でのキャリアは、その後 Carrie Models(シンガポール、香港に拠点を置くモデル・エージェンシー)のシンガポールのトップ・モデルのスカウトや育成に携わり、更には彼自身のブティック「ピン・ポン」や、パートナーのアラン・コーと共に立ち上げたシンガポール初の若いデザイナーによるショップ



「ヘミスフィアーズ」のロゴ・デザインへと繋がる。

その他ファッションへの関わりは、1984年、タンガス・デパートのディスプレイ・ディレクター、1986年の女性誌でのファッション・エディター、及び、デザイン・アート協会の創設者の一人として、シンガポールのデザイナーを国内ファッション・マーケットに送り出すなど、幅広い活動に表れている。

1982年から1990年まで、ディック・リーは自らが所有する「ランウェイ・プロダクション」というイベント会社を通じ、様々なファッション・イベント、旅行関連イベントを数多く手がける。又、ブギー・ストーリーに服装倒錯者(transvestite)のショーで成功を収めたキャバレー「ブーム・ブーム・ルーム」を開業する。

芸能界30周年を迎えるディックにとって2004年は好調に滑り出している。1月には彼の曲である「サンダーケン」(Sandarken)がコンパス・アワードで最優秀マレーポップス賞を受賞した。

ディックはみずからの音楽的才能を用いて、シンガポール・レパトリー・シアター、KK小児病院、Make-A-Wish財団および聖イグナティウス教会など、いくつかの団体組織に基金を提供するプロジェクトに積極的に参加している。

(ミュージック・シーンでの主な受賞歴)

1995年 パーフェクト10アワード。シンガポールのラジオ局によるシンガポール・ミュージック・シーンに最も貢献した人への賞。

1996年 ゴールデン・ホース・アワードのベスト・オリジナル・ムービー・テーマ・ソング・アワード。レスリー・チャン、アニタ・ユン主演のヒット作「君さえいれば」のテーマ・ソングが受賞。

1998年 トップ・ローカル・イングリッシュ・ソング・アンド・トップ・ローカル・コンポーザー賞。シンガポールの、最も優れた作曲家に送られる賞を獲得。

1999年 香港アカデミー・アワードのベスト・オリジナル・ムービー・テーマ・ソング・アワード。レオン・ライ、スー・チー主演のラブストーリー、「ガラスの城」のテーマ・ソングが受賞。

コンパス・アワードで3受賞の栄誉に輝く。

コンパス・アーティスト・エクセレンス・アワード

トップ・ローカル・チャイニーズ・ポップ・ソング・アワード

トップ・ローカル・コンポーザー・オブ・ザ・イヤー 1999

2000年 トップ・ローカル・コンポーザー・オブ・ザ・イヤー(コンパス・アワード2000)

2001年 トップ・ローカル・コンポーザー・オブ・ザ・イヤー(コンパス・アワード2001)

2003年 福岡アジア文化賞 - 芸術文化賞受賞

2004年 「サンダーケン」(Sandarken)が最優秀マレーポップス賞を受賞(コンパス・アワード2004)



Xu Ke (シェイ・クー)

中国・南京生まれ。1982年国立中央音楽学院を卒業。翌年、国立中央民族楽団の首席二胡奏者（コンサートマスター）に就任。89年、中国芸術家代表団の音楽監督としてアメリカ公演を行い、「ヒューストン市名誉市民」となる。

94年モスクワにてロシア・フィルとレコーディング（BMG）。同年日本フィル定期演奏会（サントリーホール2日間連続）に出演。95年4月には、東京・カザルスホールにて世界初の『無伴奏二胡リサイタル』を成功させ、同年8月、日本フィルと「戦後50周年コンサート」で共演し成功を収める。96・99年と二度のアメリカ・ツアーでは、バトン・ルーージュ市の名誉市民、ニューオリンズ市芸術賞を受賞。

98年には作曲家・外山雄三氏より作品の献呈を受け初演（二胡と管弦楽のための「橋」）。99年にはルイジアナ州立大学音楽学部にて客員教授を務める。同年、バージニア州のバージニア・ウォーターフロント国際芸術祭にソリストとして参加。2000年より、ヨーヨー・マの「シルクロード・プロジェクト」に参加。

2001年アジア・ツアーに同行し、台湾国立劇場で行われたヨーヨー・マとの二重奏は台湾国営TVでも放送された。同年10月シンガポール交響楽団ヨーロッパ公演のソリストとしてドイツ各地で演奏。最近ではボストンやニューヨーク・カーネギーホールでのリサイタルの成功、ボストン・モダン・オーケストラ、上海カルテット、NYメトロポリタン交響楽団との共演、フィンランド国際音楽祭でのリサイタルなど、二胡の第一人者としてますます国際的な活躍を行っている。

2002年10月から中国民族管弦楽学会胡琴専門委員会名誉理事に就任。2004年3月からは母校・中国国立中央音楽学院客員教授に就任。自国の民族楽器の教授に海外在住者を招くのは大学史上初のことである。東京とNYに在住。

CDはBMGより10種類をリリース。近年では、XUAレコードより、『賽馬』、『愛の悲しみ』、『思念』を発売。2004年10月、初のDVD『チャールダーシュ』と2005年5月、二枚目のDVD『風韻』をリリースした。



amin (アミン)

上海の音楽家族に生まれ、幼い頃から中国琵琶を始める。その後 13 歳で、中国全土のギター弾き語りコンテストで優勝。歌手活動を開始する。

中国で3枚のアルバムを発表後、19 歳で初来日をし、11 人のビッグバンド“夜總會BAND”にヴォーカリストとして参加、日本・北京・上海でライブを行う。その後 2000 年から、日本と中国の2つの都市に拠点を置いて活動を始める。2001 年、中国で自作曲「再給我一次機會」をリリースし、中国のテレビ番組チャートの第3位となる。次作「想家」も中国全国ラジオチャートのトップ10に入るヒットとなった。

中国での活動と平行して日本では 2003 年、サントリーウーロン茶のCMソング「大きな河と小さな恋」を歌い、その声を広く知られるようになる。2004 年には初のフルアルバム「おなじ空の下」をリリースし、現在は日本を拠点に活動を続ける。2005 年4月より、NHK 教育テレビ「中国語会話」のオープニング・エンディングテーマ曲、月1回の歌のコーナーにゲスト出演。また、5月中旬からのサントリー烏龍茶 2005 の CM ソング「雷電(ライディーン)」では自らが歌詞を付け歌う。8月には、第二のふるさと、日本の言葉で歌う「風のライム」を発売予定、日本と中国を結ぶ架け橋になりたいと願いを込めて歌う。



Lim Hyung Joo (イム・ヒョンジュ)

韓国の国民的オペラ・テノール・シンガー。ポップスとオペラを融合した、新しいジャンルを韓国の音楽シーンに浸透させたティーンエイジャー。クラシック、クロスオーバーの世界に存在しながらも、彼の活動範囲は、ポップシーンにも及び、韓国ドラマの挿入歌、映画の主題歌も手がけるほど、幅広い。現在、イタリア・フィレンツェ、サンフェリーチェ音楽院1学年に在学中。ファンクラブの会員数3万5千人。

1986年5月7日生まれ。現在19歳。12歳の時に、その歌声から「声楽の神童」と呼ばれたイム・ヒョンジュ。しかし、まだ子供である、という偏見から、すぐにはクラシックの世界では認められなかった。

その後、数々のコンクールで優勝し、アメリカのジュリアード音楽院予備学校に、審査委員満場一致で合格。(これはこれまでになかったこと)そして帰国してからは、2003年1月「Sally Garden」でデビュー。このアルバムは、クラシック・チャート27週間ナンバー・ワンとなり、その年のクラシック・アルバムの年間ナンバー・ワンとなる。CD売り上げは、30万枚を越えるヒットとなった。そして2月には、ノムヒョン大統領就任式において、国歌斉唱。これによって大きな注目を集める。

同年6月には、ニューヨーク・カーネギーホールで単独ライブ。ニューヨークの厳しい批評家からも賛辞を受ける。韓国の公式行事には欠かせない存在となり、この年には、ワールドカップ1周年記念平和コンサート、南北停戦50周年記念行事、ユニバーシアード前夜祭など多くの国家行事のステージを踏む。そして韓国ではセカンド・アルバム「Silver Rain」をリリース。

2004年、ソニー・ミュージックとディストリビューション契約を結び、日本でもソニークラシカルから「Sally Garden」がリリース。東京、ソウルにて「Image」コンサートに出演。韓国では3枚目にあたる「Misty Moon」をリリース。それに合せて、7都市での韓国国内ツアーを敢行。20万枚のチケットはすべてソールドアウトとなる。アジアでもアルバムがリリースされ、台湾でも大ヒットとなり、台北記念館でデビュー・コンサートを行う。「Misty Moon」のプロモーション・ビデオは、映画「ブラザーフッド」のセットを使ったドラマ仕立ての映像となり、話題となる。また、日本においては、FM Yokohamaで半年間「イム・ヒョンジュ・ホット・ライン」で初のDJに挑戦。

2005年は、新年コンサートを伝統ある世宗文化会館で行う。また、初の韓国ドラマの世界にも進出。最高視聴率30%となった「怪傑春香」の挿入歌「ヘンボクハギレバレ」は、着うたヒット数200万ヒットを記録。また、KennyGからもラヴコールがかかり、彼のソウルで行われたショウケースにゲスト参加し、「Misty Moon」をジョイントした。



日本でも今夏公開される映画「南極日誌」では、メインテーマで参加(ハミングによる)。また母親との共著となる自伝「Only One」も出版し、4月16日の発売当日のサイン会には700人のファンが集まり、発売2週目でベストセラーに輝いた。

2005年9月、いよいよ4枚目「The Lotus」をリリース。日本ではエイベックス・エンターテイメントから12月にリリースする。すでに新作からは、2曲映画の主題歌、ゲームソフトの主題歌に決定したものがあある。また10月中旬からは、大規模な韓国国内ツアーを行う。